

東京病院ニュース

第21号

2008年4月1日発行



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
 〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
 TEL 042(491)2111 FAX 042(494)2168
 ダイレクト・イン・ダイヤル 042(491)4134
 ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>



往く春を惜しめと院の桜園(悠)

桜満開の美しい春になり、平成20年度が始まりました。東京病院ではここ2~3年の間に、いままで培われてきたその歴史に大きな変容が起こりつつあります。

平成19年度末をもって、日本で最初に創設され多くの人材を輩出し、わが国のリハビリテーション医療をリードし続けてきた附属リハビリテーション学院が閉校されました。

長年にわたって東京病院呼吸器内科のみならずわが国の結核医療においても活躍されてこられた川邊芳子先生が昨年8月に退職開業され、さらに呼吸器内科の診療・研究における指導者として後輩達の拠り所となり、もって東京病院をわが国の結核・呼吸器学のリーダーたらしめてこられた倉島篤行先生は平成19年末に定年退職され、町田和子先生は今年7月から国の別の道を歩まれる予定です。平成20年度末にはさらに大きな人事が予定されています。またその後は非公務員型の独立行政法人(独法)への移行もありそうです。

この様にいままでの東京病院のあり方が変わらざるを得ない時期に当たって、東京病院の進む道をどこに見いだすべきでしょうか。国立センターの独法化により国の政策医療の担い手としてのいままでの国立病院機構の役割は、結核を除いて縮小されると思われまます。しかしながら全国146病院により構成される巨大医療チェーンの存在は、わが国の医療体制にとって最大の財産であることは間違いありません。近々新たな方向性が構築され、東京病院もその中で大きな役割を担えるよう目指します。

ところで国の政策医療から脱皮しつつある医療集団として、地域との関わりが増加してくることは当然の帰結であります。

地域医療という言葉は何十年も前から語られその意味することも様々ですが、少なくとも医療における地域住民との関わりがその根幹にあることは自明であります。私がかって在籍した長野県佐久市立国保浅間総合病院の初代院長で、現在の長野県地域医療の礎を築かれた吉沢国雄先生は、あのリンカーンの名言になぞらえて「地域医療とは端的に言えば、住民の、住民による、住民のための医療である」と述べておられました。今後は東京病院も地域住民との関わりを無くしては成り立ちません。ではどのように関われば良いのか?既にこの点については民間病院では当たり前のように様々な手段が講じられています。おそらくその後追いをするだけでは不十分でしょう。東京病院の変わり目に際して、この事は極めて大きなテーマとして検討されます。

ただ私は最近、施設、病床数、画像検査等の医療設備、医師・看護師・コメディカル等の医療スタッフを含めた東京病院の大きな医療設備・資源の実情が地域住民、地域医療機関、行政等に明らかになるにつれ、医療崩壊と言われている現状社会の中で、地域の東京病院に対する期待が非常に大きくなってきていることを強く感じています。私たちとしてはこの期待に最大限応えるところからまず始めなければならないと思っています。

副院長 中島由槻

お知らせ

○病院敷地内全面禁煙のお知らせ

健康増進法の施行や環境に対する社会的要望にお応えするため、平成20年1月より病院敷地内を全面禁煙とさせていただきます。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。これに伴いまして、禁煙外来が保険適用となっております。



○泌尿器科外来新設

平成20年4月7日、泌尿器科外来を新設いたしました。診察時間は月曜・木曜日の午後1時30分から4時30分までです。

腎癌・膀胱癌・前立腺癌・前立腺肥大症・尿路結石・尿路感染症・尿失禁・神経因性膀胱・男性不妊症・副腎腫瘍等の泌尿器疾患全般を対象といたします。手術や入院治療が必要な場合には防衛医科大学校病院等をご紹介申し上げます。なお、血液透析には対応しておりませんのでご了承下さい。

○アレルギー科新設

平成20年4月よりアレルギー科を新設いたしました。診察日は月水木金の午前中です。対象は主として気管支喘息ですが、その他にもアレルギー性肺疾患・アレルギー性鼻炎・花粉症・薬物アレルギー・食物アレルギー等あらゆるアレルギー疾患を診療いたします。

アトピー性皮膚炎や蕁麻疹をはじめとするアレルギー性皮膚疾患についても、種々のアレルギー検査を行った上、必要に応じてアレルギー専門皮膚科へのご紹介を行います。

アレルギー疾患は、現在は「国民病」とも称され、統計によれば3割から5割の国民が罹患していると言われています。アレルギー疾患の診断や治療について、どうぞご相談ください。

退任のご挨拶

本年3月31日で遂に定年退職になりました。

私は昭和52年に東京病院に入職しましたので約30年の経過です。結核化学療法の分野で国際的に有名だった砂原茂一先生が院長でした。日本で最も早くから無作為対象比較試験を開始したのが先生でしたし、INHの代謝が人種で異なることを発見したのも先生でした。

私は医局会の時は最後方に座って、前に連なる自分の父親の様な世代ばかりの先生達の話をよくわからないなりに聞いていたものでした。いわゆるカンファランスの時は米軍払い下げ品かと思われるオリーブ色塗装の巨大な今でいうOHP投影機や、アルコールで冷却する顕微鏡像投影機などの暗くちらつく画面が印象的でした。

初期の頃の結核診療は病棟に行くと、その日私が処理しなければならないカルテが机の上に積み重ねてあり、全ての事項は温度板に処方などを直接記入していけば、その日の仕事は終了でした。時間はゆったりと流れ、午後はほとんど研究など自由に使えました。

尤も、この頃呼吸器病学は非常に大きな革新が開始された時代でした。Flow-volume 曲線など精密な肺機能技術が導入され、血液ガス測定が臨床に実用化され、呼吸不全の治療経過を Siggard-Anderson のチャートの上に書けるようになったのです。他方ではグラスファイバーでできた軟性気管支鏡の普及前期にあり、今まで確定診

断のできなかったび慢性肺疾患の病理診断や、肺胞洗浄液で血液疾患のように細胞診断もできるようになった時代でした。これらの多くについて自分で納得がいく根拠を採求する余裕が持てました。当時の米田先生と一緒に日本で最初に steroid-pulse 療法を開始したのも大きな誇りでした。

呼吸器病学の多方面にわたって、それぞれ独自の領域を得意とする先生達がお互いに自由に切磋琢磨できる環境が育ちました。後進の若い先生達もくるようになり、私はやや古典的なスタイルで非結核性抗酸菌症と肺真菌症の臨床に没入していったのでした。真夏や厳冬期の空調も効いていない東京病院カルテ庫で終日分厚いレントゲン袋やカルテと格闘したのも良い思い出になりました。

私は臨床研究部長としては、研究チームが優れた成果を発表し続ける所まで充分サポートできなかったのですが、若手の医師が持続的に入れる状況や、様々な機材、データベースの構築など研究環境の整備には一定の役割を果たしたのではと思っています。

こんなに優れた仲間と遠慮のいらぬザックバランな関係の中で東京病院の医療や研究に従事できたのは本当に幸せでした。皆さんありがとうございました。

元臨床研究部長 倉島 篤行

新任のご挨拶



この4月に臨床研究部長に就任した庄司と申します。よろしくお願ひします。

3月までは国立病院機構福岡病院(もと国立療養所南福岡病院)で、アレルギー・喘息の診療をしておりました。もともと東京におりましたので東京病院の名前は存じていましたが、結核中心の病院としての認識でしたので、四元院長から招聘依頼のあったときは思わず「でも私は喘息しかできませんよ」と言ってしまいました。結局「それでかまわない」とのことでしたので、4月から東京病院にお世話になることを決心し、アレルギー科をつくっていただくことを私からお願いしました。私は日本アレルギー学会指導医の資格を持っていますので、赴任と同時に東京病院は日本アレルギー学会教育認定施設となりました。今後は、内科認定医取得後に東京病院で3年間の研修をし、学会所定の単位を得ると、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医の受験資格が得られます。アレルギー患者が増加するとともにアレルギー専門医が育ってくれることを願っています。

アレルギー科といっても私は内科医なので結局喘息治療が主になります。それでは呼吸器科と変わりないというご意見もあるかもしれませんが、実は喘息にはアレルギー性鼻炎や花粉症あるいはアトピー性皮膚炎などの「アレルギー」疾患が合併することが非常に多く、その原因も共通することが多いです。とはいえ、耳鼻科や皮膚科など他科はやはり専門医の診察も不可欠で、アレルギー科はアレルギー検査をした上での紹介「窓口」の役割も担うつもりです。呼吸器科の先生方の助けが必要なのはこの言うまでもありません。発作の際の呼吸管理の指導などいろいろ教えていただきたいと思っています。

最後に臨床研究部長としてのお願いです。国立病院の「研究」はそれが実験室での基礎的なものでも、症例検討などのより臨床的なものでも、他の(民間などの)医療機関との差別化を行う上で非常に重要です。国立病院が存在するための「鍵」になるものとして、医師や看護師のみならずあらゆる部署で「研究的視点」を持って仕事をさせていただきたいと思っています。よろしくお願ひいたします。研究の援助が必要であればいつでもご相談ください。

臨床研究部長 庄司 俊輔



3月末の強風にも負けず、桜、ユキヤナギ、桃そして山吹が美しく咲き誇っている東京病院に、西埼玉中央病院より赴任いたしました看護部長の吉田幸子と申します。よろしくお願ひいたします。

最近の医療界は毎日のように医師不足、看護師不足、救急医療の問題等、新聞やマスコミをにぎわしています。おりしも平成20年度は大幅な診療報酬改訂があり、それを視野にいった医療内容も考えなければなりません。あれもこれもと課題が山積みではありますが、地域の皆様にとって愛される病院作りに努力したいと思います。そして、当院に入院されている患者さんやそのご家族の方、また臨床の現場で日夜、頑張っておられるスタッフの方々の「縁の下の力持ち」として力を尽くしたいと考えています。

自己紹介になりますが、私はこれといった趣味はないのですが、現在インコとメダカを飼っています。メダカは2年まえに前病院の「メダカを増やそう会」のかたより10匹ほどいただき現在50匹ほどになりました。メダカはグレー色とばかり思っていたのですが、白、ピンク、オレンジ、ややラメのはいった色もありでとても変化に跳んでいます。習性もおもしろくて観察しているとついつい時間のたつのも忘れてしまいます。弱肉強食の世界でもあり、またチームワークもある世界でもありました。いろいろなことに教えられている日々です。どうぞ、よろしくお願ひいたします。

看護部長 吉田 幸子



私たち新人看護師33名は、この春、遂に看護師としての道を歩み始めました。まだ慣れないことも多く不安や緊張の連続ですが、実際に現場に出て少しずつ仕事を覚えながら、患者様の生命に携わる仕事の責任の重みを日々改めて実感し

ております。

右も左も分からず、知識も技術もまだまだ未熟な私たちではありますが、先輩看護師の皆様と共に「患者様の立場に立った思いやりのある暖かい看護」を提供していきたいよう精一杯努力していきたいと思っています。

未熟な私たちを支え、ご指導下さる諸先輩方や関わって下さる全ての方々、そして何より、これから出会うであろう多くの患者様への感謝の気持ちを忘れることなく、33名の仲間と共に一歩一歩成長していきたいよう頑張ります。どうぞ宜しくお願ひ致します。

5東病棟看護師 石崎朋実



4 西病棟紹介



4西病棟は、肝臓疾患を中心とした消化器内科の専門病棟です。

肝臓疾患特有の治療を病棟の中で行っています。エタノール注入療法やラジオ波焼灼治療などがあります。毎回医師と看護師の連携で、患者様に安全で安楽な治療を日々心掛けています。

《エタノール注入療法の実際の様子》

フローが
入ります。



しっかり持っててね



ナイスポジション!



当病棟では、検査目的の短期入院される患者様と治療目的で定期的に入院される患者様が大半を占めます。そのため、日常生活と治療や検査を両立できるよう、患者様1人1人へ質の高い看護を提供できるよう努力しています。

《血糖測定の様子》

今日の
血糖値は、
どうです?



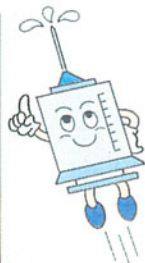
《夕食を取りに来られた患者様と看護師》

今日の献立は
何かな??

お食事を
どうぞ。



昨年は、東京都指定の肝臓専門医療機関として認定されており、肝臓の専門医師を中心に、B型・C型の肝炎治療を担っています。そのためのインターフェロン治療を行うために入院される方も多くいらっしゃいます。



1ml以下の注射を
週に1回。
こんなに少ない!

《4西病棟のスタッフから一言》



パワフルでチームワークは
病院ナンバーワン!?
4西病棟はこれからもスタッフ一同
誠心誠意ガンバります!!



リハビリテーション科開設30周年記念事業を終えて

平成20年3月1日(土)午後、懐かしい顔が次々と新しくなった東京病院に集まってきた。昨年秋に思い立ち、果たして本当に実現できるのだろうか不安の中で準備を始めた30周年記念事業の本番当日である。

結核のメッカであった東京病院の長い歴史の中で、リハビリテーション科の訓練棟が新設され、専門病棟が開設したのが昭和52年のことであった。結核医療の進歩の中で、当院が新しい道を模索していた時代。結核、呼吸器科、呼吸器外科に加えて、肝臓、神経難病そしてリハビリテーションと、当院の診療科の土台が作られていった頃である。

今回、30周年事業を行うにあたり当科の歴史を振り返る中で気付いたのは、当院には結核という長期療養を必要とする疾患と戦う中で、病院創立当初から既にリハビリテーションの精神が深く根付いていたことである。すなわち、疾患によって低下した体力を段階的運動負荷によって回復させ、作業を行い社会復帰の準備を行い、病院周辺に退院者のための授産施設や教育施設を造り、患者一人一人の治療後の人生までを支援していたのである。名誉院長砂原先生始め、多くの先人達が治療の重要な柱として運動を位置付け、地域の中に社会復帰のための複合体を構成することの重要性を意識されていたことに改めて感動し、そのような流れの中でリハビリテーション科が生まれ、多くの方の力で育てていただいたことに心から感謝したいと思う。

当日は、午後2時から大会議室で式典と施設内覧、午後4時からは職員食堂で記念パーティーが行われた。ご来賓の先生方、旧職員に加え、現在地域でお世話になっている連携医の先生方も含め、お蔭様で予想を大きく越える170名余りの方々にご参加いただくことが出来た。式典では、芳賀信彦東大病院リハビリテーション部教授、当科の初代医長であり現在は喜平リハビリテーションクリニック院長の山口明先生、鴨下博多摩北部医療センターリハビリテーション部部長、そして当院連携医副代表である中島美智子先生からご祝辞をいただいた。また、当科からはリハビリテーション科の診療内容・システムについてご紹介をさせていただいた上で、3西病棟並びにリハビリテーションセンターに希望者をご案内した。

続いての記念パーティーには、名誉院長の芳賀敏彦先生、古賀良平先生を始めとした創立期のメンバー全員をお招きし、代表として芳賀先生よりお言葉をいただいた。東京病院が、まさにリハのふるさとであったことを髣髴とさせる先生ならではの素晴らしいお話に、一同感激の面持ちであった。現役より感謝の花束贈呈に引き続き、古賀先生を中心に乾杯のご発声をいただき、そこからは新旧・地域の楽しい交流が会場のいたるところで交わされて、和やかなパーティーとなった。懐旧に浸るのみでなく多くの新しい出会いも生まれ、大変有意義なひとときであったと思う。30周年で得たこの絆を大切に、これからも皆様と共に歩むリハビリテーション科でありたいと身の引きしめる思いがした。

最後に、本事業を応援していただき、至らぬ私に貴重なご助言・ご指導を下さった四元院長並びに中島副院長、茅野統括診療部長に深く感謝いたします。また、記念誌へのご寄稿や式典・パーティーにご出席いただいた先生方、準備から後片付けまで長期にわたり支えていただいたOB、事務の皆様、そして愛する現役スタッフ達含め、全ての関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

リハビリテーション科医長 新藤直子



リハビリテーション学院閉校

このたび、独立行政法人国立病院機構東京病院附属リハビリテーション学院は、平成20年4月1日付をもって閉校となりました。

当校は、昭和38年5月に開設され、我が国で初めて理学療法士及び作業療法士の正規の系統的な教育を実践し、現在まで、理学療法学科784名、作業療法学科730名、総数1,514名の卒業生を社会に送り出してきました。当校を巣立った卒業生は、国立病院機構の病院をはじめとする全国の医療機関で活躍し、医療の質向上のために指導的な役割を担っています。

機構におきましては、独立行政法人化にとともに、人員等資源の集約を行い、教育の質的向上を図るための再編成を行ってまいりました。この流れの中で、国立病院機構東京病院附属リハビリテーション学院は、その幕を下ろすこととなりました。学院関係者一同、母校が閉校となることは誠に寂しいことではありますが、学院での経験を胸により一層の努力に励む所存であります。多くの学院関係者の皆様をはじめとして、院内職員の皆様にも、長きにわたり多大なるご支援、ご鞭撻をいただきありがとうございました。

関係者の皆様におかれましては、更なるご活躍をされますことを祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

運動療法主任 青木成広



専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
肝臓	月～金	体がだるい、黄疸や食欲の低下、健診で肝障害のある方、平成4年以前に輸血を受けた方。
呼吸器関係外来	喘息	火(午後) 「喘鳴」「発作性の咳」が主な症状です。特に夜間から明け方の咳き込みは要注意です。
	禁煙(予約制)	水(午前) 木(午後) タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
	肺がんセカンドオピニオン(予約制)	木(午後) 肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。[30分:5,250円]
	間質性肺炎	水(午前) この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
	非結核性抗酸菌症	月(午前) 咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
	気胸	火 突然の胸痛、息苦しさを感じます。
	いびきCOPD(睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金 ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
アスベスト(予約制)	水(午前) アスベスト(石綿)を扱うお仕事をされた方。 アスベスト吸入による肺の病気について御心配な方(予約制です)	
手掌多汗症	金 今増加している疾病です。手のひら、腋、顔面の発汗が多い症状です。 (汗で手が滑る、握手もできないこともあります。)	
ものわすれ外来	水(午後) 最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)	
高次脳機能外来	木(午後) 失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など(要神経内科外来受診)。	
糖尿病	木(午後) のどがかわきやすい、体重が減ってきた。 (無症状が多いので、健康診断で異常を指摘される場合が多い。)	
緩和ケア	木・金(午前) 苦痛の緩和を必要とする悪性腫瘍やエイズによる痛み等いろいろな症状でつらい思いをされている方。	

受付時間 8:30~11:00 診療時間 8:30~17:15

午後の専門外来は、12:30より受付

休診日 土・日・祝祭日および年末年始(12月29日から1月3日)

代表電話番号 042-491-2111

内線番号がおわかりの方は042-491-4134
(ダイレクト・イン・ダイヤル)をご利用下さい

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合(医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい

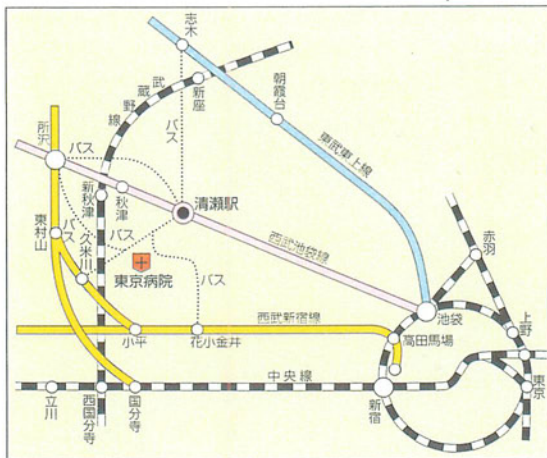
FAX 042-491-2125(8:30~15:30)

CT・MRI検査の申し込み : 医療連携室へお電話下さい

TEL 042-491-2934(8:30~17:15)

診療内容 病床数560床

- 呼吸器科
- 消化器科
- 循環器科
- リハビリテーション科
- 呼吸器外科
- 消化器外科
- 神経内科
- 内外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 整形外科
- 緩和ケア科
- ICU(集中治療室)
- アレルギー科
- 泌尿器科



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅南口バス3番乗り場より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きて東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)

- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車で越えの際は正面よりお入り下さい。(駐車場265台)
30分以内 無料
31分~2時間 100円
以後1時間毎 100円
(20時15分~7時 1時間毎300円)